

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
①相談支援体制の充実にを図る ②相談支援専門員の質の向上 ※	◇定期会議 ・基幹相談支援センター巡回相談報告 ・困難ケース共有・検討 ・地域移行・地域定着の把握、意見交換 ・社会資源等の情報共有 ・事例検討会 (野中式) ・スキルアップ研修 (サービス等利用計画作成)	P. 52	①第1回 6月20日開催 【参加者 22名】 ②第2回 9月19日開催 【参加者 19名】 ③第3回 12月19日開催 【参加者 19名】 ④第4回 2月16日開催 【参加者 18名】	①定期会議では困難ケースの検討はなく、基幹相談支援センター巡回訪問時に確認する。 あさひ学園と相談支援専門員との連携を再確認した。 ②事業所間のケース引継ぎ方法や緊急時受け入れについて、及び相談員の代筆について協議し共有することができた。 ③2月開催の共同生活援助事業所意見交換会について、相談員が知りたい内容等を協議事項にすることができた。 ④小牧市福祉総務課より、令和7年度に向けて重層的支援体制整備事業についての説明を受けた。外国籍・高齢・障がい・ひきこもり・不登校といった3分野以上の問題があるケースについて、検討委員会にて一緒に考えていけることを認識した。	終了 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> 継続 → 同じ 変更 </div>	今後も定期会議を行い、情報共有やケース検討を行うことで、相談員が困難ケースを抱え込まないようにしていく。また、スキルアップにつなげていく。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
①相談先の周知	◇関係機関での出前講座等の実施 ・小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会での相談先説明 6地区(小牧南部、小牧中部、小牧西部、味岡、篠岡、北里地区)	P. 53	西部地区民生委員・児童委員連絡協議会への出前講座の開催 1回目8月2日 聴覚障害や視覚障害の方への関わり方についての講話 【参加者21名】 2回目3月7日 発達障害の方が困っている状況についての講話 【参加者21名】	西部地区民生委員・児童委員連絡協議会で出前講座を行い、障害者への理解に繋げる機会になった。他5地区の民生委員・児童委員連絡協議会には、相談先の説明はできていない。	終了 ・継続 → ・同じ 変更	西部地区民生委員・児童委員連絡協議会以外の地区に相談先の周知を行っていきと共に障害者への理解に繋げていく。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
①地域課題を把握し解決を目指す ※	◇アドバイザーとして連絡会（こども連絡会、日中活動系連絡会・就労支援連絡会）に参加し、地域課題の抽出や提案を行うため、他の関係機関・事業所と情報交換や課題の聞き取り	P. 53	こども連絡会 ①全体会出席 6月16日開催 2月9日開催 ②事業所部会出席 7月18日開催 10月24日開催 1月23日開催 ③日中活動系連絡会・就労支援連絡会合同連絡会出席 6月5日開催 10月2日開催 2月2日開催	アドバイザーとして、地域課題につながる意見を出すことはできず。連絡会に参加することで相談支援専門員がサービス事業所の課題を把握することができた。その中でも、相談員がいないケースについて、担当者会議を開きたいが誰が発信をすれば良いかなどの問題点について、相談支援事業所連絡会で話し合ったが、結論はでなかった。また、事例検討会にて、支援が難しい児童や、外国籍の家族対応について検討を行い、対応の一つとして、担当者会議の開催が必要であるが、相談員がいない場合にどのように誰が招集をかけるかなどの課題があがった。	終了 継続 変更	同 後は、アドバイザーという立場ではなく、委託相談支援事業所の相談支援専門員として、各連絡会に参加する。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き	◇相談支援事業所連絡会で検討すべき課題を共有し、課題解決に向けて検討		緊急時に宿泊を伴う受け入れ先を探すことが、極めて困難であることを共有した。	地域課題でもあり、第4次障害者計画の重点施策の一つでもある「地域生活支援拠点の機能強化」として検討が必要。	終了 ● 継続 → ● 同じ ・ 変更	多くの相談員が課題と感じている。
①市内の相談支援専門員を増やす	◇機能強化型(継続)サービス利用支援費の算定について検討	P. 53	「特定・障害児相談支援の機能強化型サービス利用支援費算定に係る複数事業所による協働体制構築の検討会」の開催 7月13日開催 【参加者11名】 8月30日開催 【参加者13名】 9月14日開催 【参加者13名】	参加した事業所の中で、2事業所が前向きに検討していくことになった。この検討会については、3回で終了とする。	● 終了 ● 継続 → 同じ ・ 変更	ふれあい総合相談支援センターといわぎき授産所の2事業所で「特定・障害児相談支援の機能強化型サービス利用支援費算定に係る複数事業所による協働体制」の具体的な協議を進めていく。また新たに参加を検討する事業所があれば相談に乗っていく。
①卒業後の多様な進路の確保	◇当事者・保護者を対象に、特別支援学校卒業後の進路先となる事業所紹介 ◇特別支援学校と進路の情報共有	P. 42	保護者向け進路説明会 パネルディスカッションの開催 8月7日開催 保護者参加者 【参加者18名】 事業所パネラー 【6事業所】 ブース 【12事業所】	事前に保護者から取ったアンケートを元に、パネルディスカッションの内容を考えたこともあり、「聞きたいことが聞けて良かった」という意見が多くあった。特別支援学校の教員にも呼びかけを行ったが、参加は無かった。	● 終了 ● 継続 → 同じ ・ 変更	当日参加した保護者から参加後のアンケートより、来年度の開催については、希望が3名であったことから相談支援事業所連絡会としては行わない。ただし来年度は、日中活動系・就労支援連絡会で行っていく。特別支援学校の教員と進路の情報共有については、今までの関わりの中で個別相談で対応ができていていると思われる。